

# 奥津軽 五所川原

ごしおがわら

青森県五所川原市



心躍らせる火祭りの故郷。

太宰の面影を偲ぶ郷里。



虫おくり



津軽三味線



太宰治



ストーブ  
列車



立佞武多



津軽半島の  
ど真ん中へ

●掲載されている文章は、令和4年3月31日現在のものです。●掲載されているイベント等の詳細につきましては各お問い合わせ先までお願いします。●イベントの期日・時間等、内容につきましては変更される場合もあります。

# 立佞武多

TACHINEPUTA

ビル七階建てに匹敵する高さ約23メートル、重さ約19トンの偉容。百年の時を経て五所川原の歴史が街を練り歩く。



## 明治時代からのメッセージ

巨大な五所川原立佞武多が記録に登場するのは、明治40年頃とと言われており、当時の豪商、大地主の富の象徴として、高さを誇るようになり、約10~12間(約18~21.6メートル)に及びようになりました。その勇姿は、近隣の町村からも見えたと言われるほど巨大なものでした。しかし、大正時代になり電線が通りを横切ることにより、ねぶたは小型化の一途をたどり、また、戦後に起きた2度の大火で街が全焼したことにより、ねぶたは姿を消しました。

復活の発端となつたのは、平成5年に発見された明治・大正のものと見られる巨大ねぶたの台座の設計図。設計図には年代は記されていませんでしたが、明治・大正期の巨大ねぶたのものと推察されました。

## 古習に倣い火が放たれ、立佞武多を昇天。その幻想的景観は止めどない感涙を呼びました。

立佞武多を復活させた  
有志たち



## 「五所川原立佞武多」まつり開幕

「巨大ねぶた復活」から2年後の平成10年。立佞武多が市街を練り歩く準備が始まり、道を横切る電線等を埋設するインフラなどの整備が急ピッチに行われました。

同年8月5日、恒例の「ねぶた祭り」において、およそ7階建てのビルに相当する高さ22メートル、総重量16トンの立佞武多「親子の旅立ち」が、約30人の若者に曳かれ、闇にその偉容を浮かび上がらせました。その後、市民や観光客が運行コースに詰めかけ、立佞武多が立ち往生する場面もあったほど混沌とした興奮に包まれました。

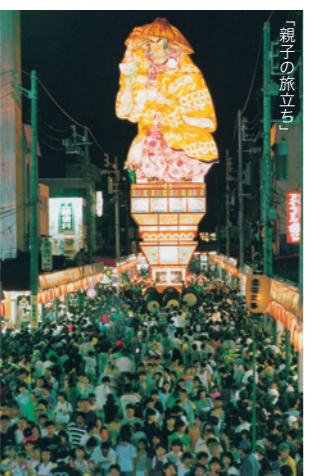


「暫(じばらく)」  
立佞武多見学はも  
ちろん、展望ラウンジからの景色もお楽しみください。

ぶたが運行されます。「ヤツテマレ!」の力強い掛け声とともに五所川原の夜を熱くします。

**巨大な偉容が眼前に、「立佞武多の館」**

祭り本番に出陣する大型の立佞武多3台を展示しています。らせん状のスロープを下りながら観覧できるので、巨大なねぶたを間近でじっくり眺められます。製作途中の立佞武多見学はもちろん、展望ラウンジからの景色もお楽しみください。



## 五所川原花火大会

約70年の歴史を誇ります。現在は立佞武多まつりの前夜祭として行われ、噴水や照明、BGMに合わせて約5千発のスター・マイイン(連続花火)が打ち上げられます。ファイナーレには幅80メートルのウォーターアップテインがライトアップされ、花火とともに夜空を彩ります。



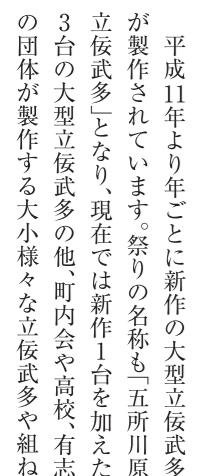
## 「眠り流し」民俗が巨大化した奥津軽の祭礼。

### 巨大ねぶた復活へ。立佞武多と命名

平成8年、約80年ぶりに苦難の復元が始動。その巨大ねぶたは「立佞武多」と命名されました。復元の場は岩木川河川敷、復活の「初陣」は、ねぶたの起源「眠り流し」の民俗行事に因んで新歴の七夕の時期に合わせられました。そして7月3日午後8時、約1世紀ぶりに新しい歴史を刻むことになる立佞武多「武者」が製作されました。祭りの名称も「五所川原立佞武多」となり、現在では新作1台を加えた3台の大型立佞武多の他、町内会や高校、有志の団体が製作する大小様々な立佞武多や組ね



明治後期の巨大ねぶたの写真



## 五所川原花火大会

平成11年より年ごとに新作の大型立佞武多が製作されています。祭りの名称も「五所川原立佞武多」となり、現在では新作1台を加えた3台の大型立佞武多の他、町内会や高校、有志の団体が製作する大小様々な立佞武多や組ね

### 五所川原花火大会

●期日／8月3日 ●時間／19:20~  
●有料観覧席有り(要問合)  
●場所／岩木川河川敷  
●交通／JR五所川原駅より徒歩約10分  
●問／五所川原商工会議所  
☎0173-35-2121  
●地図／P17:C-1

### 立佞武多の館

●開館／9:00~19:00(4月~9月)  
9:00~17:00(10月~翌3月)、9:00~21:00  
(8月4日~8日)、9:00~15:00(12月31日)  
●休館／1月1日(営業の場合有。要問合)  
●入館料／立佞武多展示室一般650円  
●交通／JR五所川原駅より徒歩約5分  
●問／☎0173-38-3232 ●地図／P17:C-2

### 五所川原立佞武多まつり

●期間／8月4日~8日 ●時間／19:00~21:00 ●場所／五所川原市中心市街地  
●料金／有料観覧席3,000円~(要申込) ●交通／JR五所川原駅より徒歩約3分  
●問／五所川原市観光協会☎0173-38-1515  
※有料観覧席については、五所川原商工会議所☎0173-35-2121、まちなか五所川原☎0173-33-6338  
祭り期間は、臨時駐車場をご利用頂けます。(P16・17参照)

# 太宰治

DAZAI OSAMU

「太宰の文章は、読者への手紙である」と語ったのは、太宰研究家として有名な奥野健男である。生きることの歓びと哀しみ、善と惡、高貴と卑しさ。太宰は、人間の奥深くにひそむ根源的な業を天賦の才能であぶり出し、私信のように読み手に送り続けた。

六月十九日

「…私の生れた日は明治四十二年の六月十九日である。…」  
「…私は子供の頃、妙にひがんで、自分を父母のほんとうの子ではないと思い込んでいたことがあります。…」  
「…夕暮でした。あの、小間で生れたのでした。蚊帳の中で生れました。ひどく安産でした。すぐに生まれました。鼻の大きいお子でした。色々の事をはつきり教えてくれるので私も私の疑念を放棄せざるを得なかつた。なんだが、がつかりした。自分の平凡な身の上が不満であった。…」（六月十九日 昭和15年執筆）



## 「斜陽」そして「人間失格」

県立青森中学、官立弘前高等学校、東京帝国大学。大正デモクラシー、マルキシズムの洗礼を受けて、太宰の苦悩は深まっています。自殺未遂、心中未遂、薬物中毒。そんななか、昭和14年に恩師・井伏鱒二の紹介で石原美知子と結婚。東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）を出て教師をしていた美知子は後に著書『回想の太宰治』で語っています。「著書を読んだだけで会わぬさきからただ彼の天分に眩惑されていた」と。

創作意欲を取り戻した太宰は、「富嶽百景」、「走れメロス」、「津軽」、「お伽草紙」、「斜陽」など後世に残る名作を執筆し、時代の寵児として名をあげていきます。しかし、自伝的ともいえる『人間失格』を書いてしまった昭和23年、愛人・山崎富栄と共に玉川上水に入水し、この世を去ります。

## 「撰ばれてあることの 恍惚と不安と二つわれにあり」

これは太宰が生前、もっとも好んで口にしたといわれる「ヴェルレーヌ（フランスの詩人）」の一節。吉野公園にある「太宰治文学碑」に刻まれおり、中央の鉄格子は、「人間の道には狭いわしい一つ一つの門がある」ということを意味しています。

文学碑と銅像は、太宰がよく遊んだ吉野公園の登仙岬に建立されています。毎年6月19日には、ここで太宰治誕生日に関するイベントが行われています。

## 太宰治記念館 「斜陽館」

明治40年に建てられた太宰の生家。国の重要文化財に指定され、蔵を利用した展示室では、太宰治が生前着用していた二重回しのマントや執筆道具、初版本、翻訳本、書簡などの他、津島家で使用していた調度品なども展示しています。



## 小説『思ひ出』の背景

太宰は幼い頃、子守のタケに連れられてよくこの寺を訪れました。『思ひ出』に登場する『地獄極楽の御絵掛地』は、実際には極楽の絵は無く地獄の絵だけです。また、後生車は不慮の死をとげた子供達の供養のために建立されたもので、子供達に沢山回してもらうことによって魂が成仏できるとされていました。

昭和21年、金木町に文化会を作ろうという地域の有志らが集い、「雲祥寺」本堂で発行式を開催。この席で太宰は講演を行いました。同年7月1日発行の『金木文化』創刊号の扉に、太宰は贈る言葉として、「汝を愛し、汝を憎む」という言葉をしたためています。



## 太宰治ゆかりの地、 文学散歩

生家や戦時中に疎開していた家など太宰治ゆかりの地が数多く残る五所川原市金木地区を地元ガイドと歩いてみませんか。



## 太宰治「思ひ出」の蔵

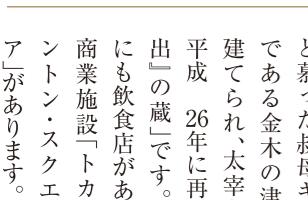
●開館／10:00～17:00（除外日：お盆期間、年末年始）※時期により受付できない場合もあります（要問合）  
●料金／2時間コース（2名以上）1名2,800円（1名の場合3,800円）  
3時間コース5,000円（4月～11月）  
●定員／2～9名（10名以上は要相談）  
●場所／津軽鉄道金木駅集合  
●問／太宰治記念館「斜陽館」  
0173-53-2020 ●地図／P18:F-4（金木駅）



新座敷



旧津島家新座敷



旧津島家



太宰治記念館「斜陽館」

●開館／9:00～17:30（4月～9月）、9:00～17:00（10月～翌3月）  
●休館／12月29日 ●料金／一般600円、高大400円、小中250円  
●交通／津軽鉄道金木駅より徒歩約7分  
●問／0173-53-2020 ●地図／P18:F-3

旧津島家新座敷

●開館／9:00～17:00  
●休館／第1・3・5水曜（その他臨時休館有り、要問合）  
●料金／一般500円、小中250円（希望者にはガイド有り）  
●交通／津軽鉄道金木駅より徒歩約4分、斜陽館より徒歩約4分  
●問／白川0173-52-3063 ●地図／P18:F-3

出の蔵

ントン・スクエア

にも飲食店がある



太宰治銅像



太宰治文学碑



太宰治銅像



太宰治銅像



太宰治銅像



太宰治銅像



太宰治銅像



太宰治銅像



太宰治銅像

# 歴史探訪

北方世界との交易・流通拠点の窓口として役割を果たした中世日本  
有数の湊町、十三湊。十三湊を支配した安藤氏の軌跡と日本中世社会での「北の文化」を探訪。

## 十三湊と安藤氏



市浦歴史民俗資料館に展示されている安藤愛季(ちかすえ)の像(複製)

(約3500年前～2500年前)の遺跡で、マウンドを伴う土坑墓群が発見され、注目されました。さらに土坑墓群が大規模な環状に巡ることが判明した貴重な祭祀遺跡です。

された「外ヶ浜」(陸奥湾西岸)と同様な性格を有する境界領域でした。まさに西の博多に対比されるような国際貿易港として日本史上極めて重要な意味をもつていました。

平成3年～平成15年にかけて十三湊の学術調査が継続して進められ、十三湊に居住した人々の暮らしぶりや港湾の実態解明に向けた調査が行われてきました。その結果、中世十三湊が鎌倉～室町時代(13～15世紀中頃)に繁栄した湊町だったことが判明し、平成17年7月に国史跡指定となりました。

## 市浦歴史民俗資料館

十三湊からは膨大な量の陶磁器が見つかり、物資の集積所だった様子を伝えています。中國や朝鮮半島から運ばれた青磁・白磁・高麗青磁、福井県の越前焼、石川県の珠洲焼、愛知県の瀬戸焼などが主要なものです。広く海外や国内各地から日本海を通じて物資が運ばれ、活発な交易活動が行われていたことが明らかになりました。

市浦歴史民俗資料館では、最近の発掘・研究成果からみた十三湊の実態と十三湊を支配した安藤氏の軌跡を紹介しています。



安藤氏の居城と伝えられる福島城跡  
(地図／P18市浦地区詳細図)



南部氏との攻防の舞台となった唐川城跡

## オセドウ貝塚と五月女泡遺跡

十三湖周辺には縄文時代の遺跡も多く見つかっています。オセドウ貝塚は縄文時代前期中頃(約5500年前)にかけて形成されたヤマトシジミを主体とする遺跡で、大正10年に貝塚から、埋葬された繩文人骨が発見されました。五月女泡遺跡は縄文時代後期後葉(そごめいごごくごごく)にかけて形成された。



五月女泡遺跡から発掘されたオセドウ貝塚で発見された人骨

人面形浅鉢土器



横8メートル、高さ2.5メートル  
にもおよぶ大きさで精緻な細工  
まで再現された「布嘉御殿」

## 布嘉屋(ぬのかや)

豪商の町、五所川原。中でも呉服商から東北屈指の大富豪となつた佐々木嘉太郎の「布嘉御殿」は別格。御殿は大火で焼失しましたが、

巨額の私費を投じ、平成21年に御殿の模型を作成させたのが佐々木治さん。なんど模型のみならず展示館まで作ってきました。



横8メートル、高さ2.5メートル  
にもおよぶ大きさで精緻な細工  
まで再現された「布嘉御殿」

巨額の私費を投じ、平成21年に御殿の模型を作成させたのが佐々木治さん。なんど模型のみならず展示館まで作ってきました。

## 市浦歴史民俗資料館

- 休館／12月1日～翌3月31日
- 時間／9:00～16:00
- 料金／一般310円
- 交通／五所川原駅より車約50分
- 問／市浦地域活性化センター  
☎0173-62-2775
- 地図／P18:C-1

## 旧平山家住宅

- 開館／土・日曜、祝日のみ
- 休館／上記以外の平日及び  
12月1日～翌3月31日
- 時間／9:00～16:00
- 料金／一般500円
- 交通／JR五能線五所川原駅より車約10分  
●問／五所川原市教育委員会  
社会教育課☎0173-35-2111
- 地図／P16:F-3

## 楠美家住宅

- 開館／12月1日～3月31日
- 時間／9:00～16:00
- 料金／一般500円
- 交通／JR五能線五所川原駅より徒歩約7分  
●問／☎0173-34-7670
- 地図／P16:F-3

## 布嘉屋(ぬのかや)

- 開館／月曜、冬期11月11日～4月19日  
(観覧希望の場合は要問合)
- 時間／10:00～16:00(4月20日～11月  
10日)
- 料金／一般500円
- 交通／五所川原市教育委員会  
社会教育課☎0173-34-8870
- 地図／P17:E-1

## 十三湊と安藤氏

十三湊は戦国時代までに成立したとされ

「廻船式目」(現在の海商法に当たる法律書)のなかで「三津七湊」の一つに挙げられるなど、中世に始まる典型的な港湾都市のひとつです。

中世後期に日本十指に数えられるなど全国的にみても北日本屈指の大規模に整備された湊町であり、日本海を舞台に津軽海峡を挟んだ

北海道・蝦夷地におけるアイヌ民族との北方

商品(鮭・昆布・毛皮類などを交易する拠点湊

として栄えました。現在は「じゅうさん」、江戸時代後期まで「とさ」と呼ばれていました。

その十三湊に拠点を置き、北方世界を支配したのは安藤氏です。安藤氏は自らの先祖を

前九年の役(1051～1062年)で朝廷側の源頼義と戦った安倍貞任の末裔とし、「安

倍」を本姓としています。東夷の酋長と呼ばれた安倍氏のように、自らをエミシ(中世には「エゾ」と呼ぶ)のリーダーであると強く主張しています。津軽海峡を挟んだ北方世界を支配する正當性を誇示した特異な豪族なのです。

このように十三湊は北方世界と畿内を結ぶ重要な湊としての地位を占めていたのです。また、十三湊が位置する津軽西海岸一帯は中世には「西浜」と呼ばれ、中世国家の東限と認識

されています(『新羅之記録』)。道南の館主とアイヌ民族との交易によって得られた北

方产品は十三湊に一端集積され、さらに日本海を通じて京都方面へ運ばれていきました。

このように十三湊は北方世界と畿内を結ぶ重要な湊としての地位を占めていたのです。また、十三湊が位置する津軽西海岸一帯は中世には「西浜」と呼ばれ、中世国家の東限と認識





# 風土の技を体感



**“焼き締め”の逸品、津軽金山焼**  
 その昔、「須恵器」の一大生産地であった梵珠山。そこを「津軽金山焼」の本拠地としたのは、この地を再び陶芸の里として蘇らせたいという思いによるものです。  
 金山の大溜池の底に堆積していた良質の粘土を用いたこの陶器は、梵珠山麓の傾斜面に焼成室を連ね、下方の房から上方へ渡る余熱を利用して「登り窯」内で11昼夜を掛けて焼き上げられます。釉薬を一切使わず、高温で時間を持って焼き硬める“焼き締め”という手法で、自然で深みある風合いを引き出します。最近では、東津軽郡産出の流紋岩と金山粘土を合わせた純青森県産の原料を使用した新商品を創出するなど、応用分野を広げています。



- 営業時間／10:00～15:00
- 料金／手ろくろ使用：大人1,550円（税込）
- 電動ろくろ使用：大人5,500円（税込）
- ※出張教室：料金+出張料
- 所要時間／30分～90分
- 定休日／不定休（要予約）
- 問／☎080-8488-2485 ●地図／P16:F-3



## 金山焼陶芸教室「ちゅうばち」

金山大溜池のほとりにある「工房ちゅうばち」では、手ぶらで気軽に金山焼の作品づくりを体験できます（通常は予約制）。手びねりと電動ろくろのコースがあり、個人、団体、出張教室もあります。講師がわかりやすく丁寧に指導＆フォローしてくれるので、年齢を問わず、初心者でも安心して体験できます。



うちわ作り体験(500円)  
※所要時間／30～45分

- 津軽金山焼
- 時間／9:00～17:00
- 交通／JR五所川原駅より車約15分
- 問／☎0173-29-3350
- 地図／P16:F-3

## 立佞武多の館で製作体験

立佞武多は、通常ほぼ一年を通して製作しており、製作の様子の見学の他、津軽の民芸品「金魚ねぶた」の絵付け体験や、実際に立佞武多に使用された紙を再利用しての「ねぶたライト」や「うちわ」などの製作体験もできます。



## かなぎ元気村「かだるべえ」

太宰治の生家津島家にゆかりのある傍島家の古民家で「田舎暮らし」体験や、ひばのからぬくすを利用したひばリース作り、スイツ作りなど、田舎の温もりを体感するメニューが豊富です。お食事やグランピングの宿泊もできます。

- かなぎ元気村「かだるべえ」で田舎体験
- 期間／4月～11月（1週間前まで要予約）
- 時間／10:00～16:00
- 休館／月～水曜（4月～11月）、12月～翌3月
- 料金／要問合
- 交通／津軽鉄道金木駅より車約12分
- 問／かなぎ元気村「かだるべえ」☎0173-52-2882
- 地図／P18:E-1



金魚ねぶた作り体験(1,200円)  
※所要時間／60～90分

- 津軽金山焼
- 時間／9:00～17:00
- 交通／JR五所川原駅より車約15分
- 問／☎0173-29-3350
- 地図／P16:F-3

# 津軽三味線、響の景



- 白川軍八郎(1909～1962)  
仁太坊の最後の弟子。9歳で弟子入りし、わずか3年で師匠を凌ぐ腕になったと言われています。仁太坊の“叩き三味線”に対し、“弾き”を得意としました。自然界の音を三弦に昇華させ、津軽三味線の神様と呼ばれ、木田林松栄や福士政勝といった名手にも多大な影響を与えました。
- 嘉瀬の桃(1886～1931)  
津軽三味線の元祖「仁太坊」こと秋元仁太郎は、安政4年7月7日に生れました。8歳の時、疱瘡がもとで失明。12～3歳の頃、上方から流れてきた女三味線弾きから手ほどきを受けたと伝えられています。今日唄われる津軽の三つ物、「俺は乞食ではない、芸人だ。」という型を作ったことから、津軽民謡中興の祖と言われています。
- 仁太坊(1857～1928)  
津軽三味線の元祖「仁太坊」こと秋元仁太郎は、安政4年7月7日に生れました。8歳の時、疱瘡がもとで失明。12～3歳の頃、上方から流れてきた女三味線弾きから手ほどきを受けたと伝えられています。今日唄われる津軽の三つ物、「俺は乞食ではない、芸人だ。」という型を作ったことから、津軽民謡中興の祖と言われています。



そんな厳しい風土から生まれた津軽三味線の元祖とされるのが、神原の「仁太坊」こと本名、秋元仁太郎（安政4年～昭和3年）。仁太坊は旧金木町の出身で、苦難の末、生きるために「叩き奏法」や「八人芸」を造り出しました。やがて、仁太坊門下の「嘉瀬の桃」や名手「白川軍八郎」などによって津軽三味線の基礎が築かれ、広く伝えられていきました。「仁太坊まつり」は津軽三味線の元祖、「仁太坊」の功績を讃えるため、平成6年より開催されています。このイベントは、これまで津軽三味線全日本金木大会（開催未定）入賞者による津軽三味線エキシビションをメインに開催されており、熱い演奏が繰り広げられます。



現在、豪快華麗な津軽三味線の音楽は、全国の爱好者・ファンを魅了しています。「津軽三味線会館」は、津軽三味線の発祥とそのルーツを広く知つもらうための施設です。



- 津軽三味線会館
- 期間／9:00～17:00
- 料金／入館一般600円、高大400円、小中250円、音出し体験有り※要問合
- 交通／津軽鉄道金木駅より徒歩約7分
- 問／津軽三味線会館☎0173-54-1616
- 地図／P18:F-3

## 津軽三味線発祥の地、奥津軽の音色を楽しむ

三味線は、16世紀後半に日本に伝えた樂器。日本では江戸時代に歌舞伎の伴奏に用いられるなど急速に普及しました。太棹、中棹、細棹の3種類があり、津軽三味線は大きな音が出せる太棹が主流で、一般的に胴も大きくなり太めのものが使われます。

明治から昭和初期にかけての津軽地方では盲目の芸人たちは「ボサマ」と呼ばれ、人々を回りながら玄関先で津軽三味線などを演奏する「門付け」で生計を立てていました。彼ら芸人にとって、津軽三味線はまさに生きていくための芸の道具であり、生きる術そのものでした。

明治から昭和初期にかけての津軽地方では盲目の芸人たちは「ボサマ」と呼ばれ、人々を回りながら玄関先で津軽三味線などを演奏する「門付け」で生計を立てていました。彼ら芸人にとって、津軽三味線はまさに生きていくための芸の道具であり、生きる術そのものでした。

そんな厳しい風土から生まれた津軽三味線の元祖とされるのが、神原の「仁太坊」こと本名、秋元仁太郎（安政4年～昭和3年）。仁太坊は旧金木町の出身で、苦難の末、生きるために「叩き奏法」や「八人芸」を造り出しました。やがて、仁太坊門下の「嘉瀬の桃」や名手「白川軍八郎」などによって津軽三味線の基礎が築かれ、広く伝えられていきました。

「仁太坊まつり」は津軽三味線の元祖、「仁太坊」の功績を讃えるため、平成6年より開催されています。このイベントは、これまで津軽三味線全日本金木大会（開催未定）入賞者による津軽三味線エキシビションをメインに開催されており、熱い演奏が繰り広げられます。

# 奥津軽の風物詩



青森県立芦野公園は、およそ80ヘクタールの自然公園で、約千五百本の桜と松並木が湖畔に広がる日本さくら名所百選に選ばれた景勝地です。太宰が少年の頃よく遊んだ場所として知られ、太宰が歩いた遊歩道や太宰治文学碑などもあり、ファンや観光客が散策しながら太宰を偲んでいます。

「金木さくらまつり」会期中には、花火が打ち上げられ夜桜に彩りを感じさせてくれます。園内には津軽三味線発祥之地碑、吊橋、浮橋、児童動物園、家族で遊ぶふれあい広場、オートキャンプ場などがあり、地域の行楽地としても親しまれています。旧駅舎を改装した喫茶「駅舎」は散策の休憩にぴったり。公園の中を通る津軽鉄道、昔ながらの小さな駅、そんなのどかな風景は訪れる人々を一段と和ませています。



体を包む大きなブランケット「角巻き」  
雪に足をとられ転ぶこともしばしば  
冬からの雪遊びが楽しめます。

## 雪国地吹雪体験

「地吹雪体験ツアーア」は、昭和63年より始まった体験企画。青森県の冬季観光のさきがけといつても過言ではない人気のイベントで、海外からの常連客もいるほど。

内容はモンペ、角巻き、カンジキ姿で地吹雪を体感する、というものです。冬の牙ともいえる地吹雪が存分に荒れ狂った日には、前を見て歩くことすら困難。積もった雪が強風で舞い上がる地吹雪のなか、昔ながらの角巻き姿で奥津軽の猛威を体験してみませんか。

**芦野公園 金木桜まつり**

- 期間／4月下旬～5月上旬
- 場所／芦野公園
- 交通／津軽鉄道芦野公園駅下車
- 問／金木桜まつり実行委員会 0173-52-2611
- 地図／P18:D-3

**川倉賽の河原地蔵尊大祭**

- 期間／旧暦6月22日～24日(要問合)
- 場所／川倉賽の河原地蔵尊本堂
- 交通／津軽鉄道芦野公園駅より車約15分
- 問／川倉地蔵堂事務所 0173-53-3282
- 地図／P18:D-4

## 雪国地吹雪体験

●期間／1月下旬～2月初旬の土・日曜(要予約)※実施日は要問合。

1日限定10名まで  
●料金／一般3,000円、子供500円(要予約)  
●場所／芦野公園・嘉瀬スキー場等  
●問／津軽地吹雪会(代表・角田周) 080-3195-4036

## スノーシュートレッキング体験

●期間／1月上旬～2月下旬  
●休／要問合

●時間／10:10～12:00頃

●料金／お一人様2,900円

●定員／2～30人(要相談)

●場所／芦野公園・嘉瀬スキー場等

●問／かなぎ元気村 0173-52-2882

## ストーブ列車

●期間／12月1日～翌3月31日  
●時間／1日3往復  
(12月1日と12月の平日のみ2往復)

●料金／運賃+ストーブ列車料金500円

●場所／津軽五所川原駅～津軽中里駅  
●問／津軽鉄道 0173-34-2148

## 真夏のストーブ列車

●期間／8月上旬  
●料金／要問合  
●場所／津軽五所川原駅～津軽中里駅  
●問／津軽鉄道 0173-34-2148

## 津軽鉄道駅弁

●申込／3日前まで要予約(ご注文は2個より)  
●申込先／本社 0173-34-2148  
(平日＝8:30～17:00、土曜＝8:30～12:30)  
津軽五所川原駅 0173-35-7743  
(7:00～19:00)  
金木駅 0173-53-2056(5:40～21:00)

## 奥津軽の旅情を愉しむローカル列車の旅

### 津軽鉄道、季節の駅弁

ストーブ列車で有名な津軽鉄道は、津軽五

所川原駅～津軽中里駅間20・7キロメートル

を、45分で結ぶローカル線昔は津軽半島の木

材を運ぶ森林鉄道として栄えました。車窓か

らは穀倉地帯や津軽山地の四季の移ろいを樂

しむことができます。

津軽鉄道は各種のイベント列車も運行して

いります。「津軽金山焼」の風鈴を車内に吊す「風

鈴列車」(7～8月)、熱氣に満ちたおもてなし

「真夏のストーブ列車」(8月上旬)、「鈴虫の入

った籠を車内に設置し音色を愉しむ「鈴虫列

車」(9月～10月中旬)が奥津軽の季節の移ろい

を感じさせています。

何より「ストーブ列車」は、津軽鉄道の代名

詞ともいえる存在。石炭を燃やすダルマスト

ーブが置かれた車内は木造りの椅子や扉な

を感じさせています。

津軽鉄道は各種のイベント列車も運行して

いります。「津軽金山焼」の風鈴を車内に吊す「風

鈴列車」(7～8月)、熱氣に満ちたおもてなし

「真夏のストーブ列車」(8月上旬)、「鈴虫の入

った籠を車内に設置し音色を愉しむ「鈴虫列

車」(9月～10月中旬)が奥津軽の季節の移ろい

を感じさせています。

何より「ストーブ列車」は、津軽鉄道の代名

詞ともいえる存在。石炭を燃やすダルマスト

ーブが置かれた車内は木造りの椅子や扉な

を感じさせています。

津軽鉄道は各種のイベント列車も運行して

いります。「津軽金山焼」の風鈴を車内に吊す「風

鈴列車」(7～8月)、熱氣に満ちたおもてなし

「真夏のストーブ列車」(8月上旬)、「鈴虫の入

った籠を車内に設置し音色を愉しむ「鈴虫列

車」(9月～10月中旬)が奥津軽の季節の移ろい

を感じさせています。

津軽鉄道は各種のイベント列車も運行して

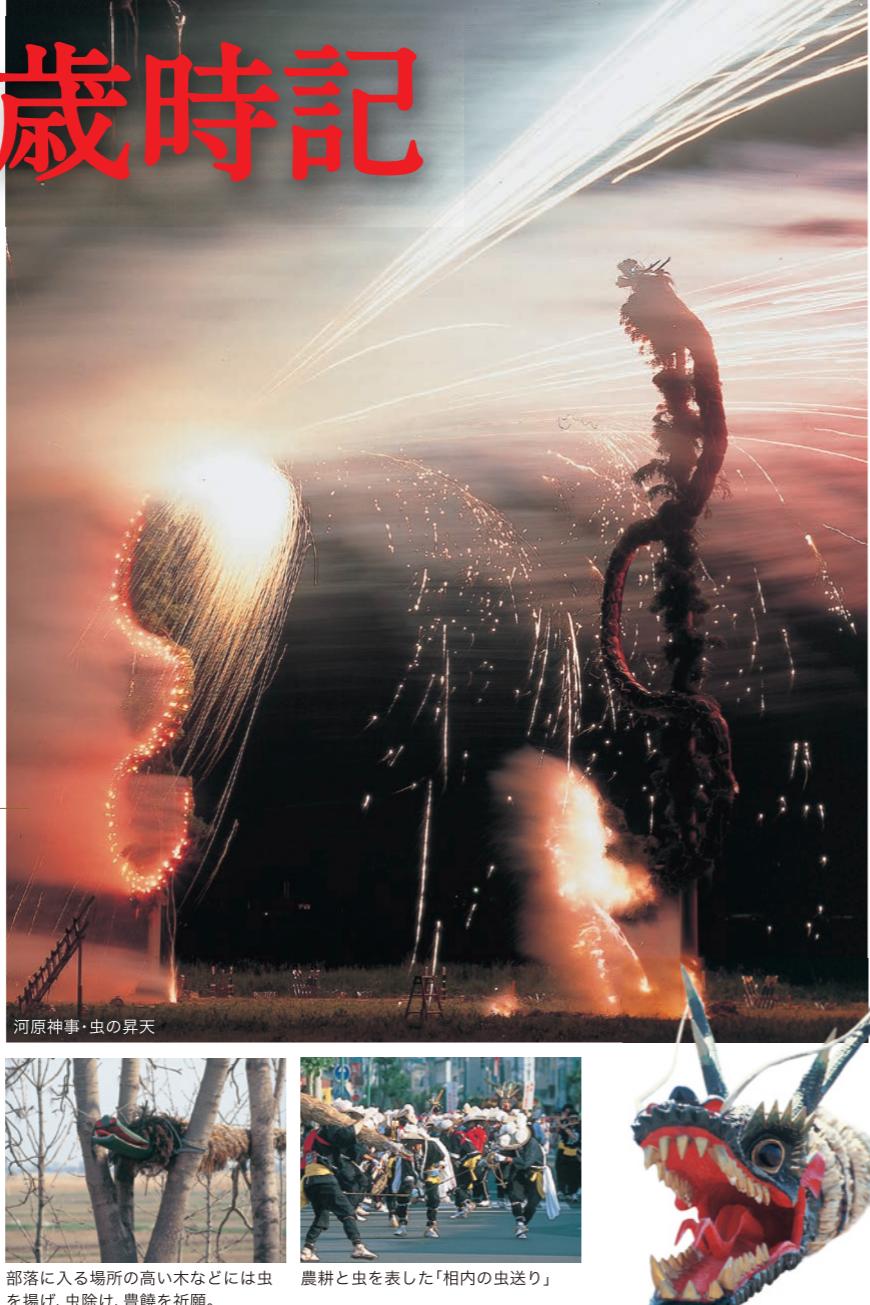
いります。「津軽金山焼」の風鈴を車内に吊す「風

# 奥津軽の歳時記

**奥津軽虫と火祭り**

「虫おくり」という民俗は津軽西北地方に残ります。この祭りは、稻を病害虫から守ることを目的に伝わる慣習です。『永禄日記』では、1627年6月の記事に、稻虫がおびただしく散在で、虫祭りが行われ、藩でも7日間の祈祷を行つたとあります。また、イナゴの大群により、西北地方の稻が全滅したことが起こりといわれています。

虫送りの「虫」は龍蛇体状の物で頭は主に木造り、胴は藁で造られ、大きい物では10メートルにおびます。「奥津軽虫と火祭り」は虫送り行事をメインに、各々の土地に伝わる早苗振等の伝統芸能を披露し、虫を曳く祭りです。また、若者たちによる「松明御輿」、夜には虫に火を放ち昇天させる神事も行われます。



## 道の駅十三湖高原まつり

- 期日／8月下旬の日曜
- 場所／道の駅十三湖高原
- 交通／JR五所川原駅より車約50分
- 問／道の駅十三湖高原
- ☎0173-62-3556
- 地図／P18:C-3

**道の駅十三湖高原まつり**

十三湖名産やマトシジミの販売や、しじみの「虫おくり」など、季節のイベントを開催。恒例の人気イベント「しじみのすくいどり」(有料)はくじで大当たりが出るとジャンボスコップ、はずれはミニシャベルですくいどりできます。

## 道の駅十三湖高原まつり

### 河原神事・虫の昇天



### 部落に入る場所の高い木などには虫を揚げ、虫除け、豊饒を祈願。

### 農耕と虫を表した「相内の虫送り」



## 裸参り



## 裸参り

12月30日(元日にかけ市内に行われます。若者達がふんどし姿で百キロもある大綺め縄や三俵、お供え餅や食べ物などの供物を持ち、神社へ奉納するまでの間、村内を練り歩きます。

**奥津軽虫と火祭り**

- 期日／6月第3土曜
- 場所／五所川原市中心街
- 交通／JR五所川原駅下車
- 問／五所川原青年会議所
- ☎0173-35-4049
- 地図／P17:C-1~2

**脇元岩木山神社大祭**

- 期日／旧8月1日
- 場所／市浦脇元地区
- 交通／JR五所川原駅より車約1時間
- 問／お山参詣保存会
- ☎0173-62-3536
- 地図／P18:A-1

**津軽すこっぷ三味線世界大会**

- 期日／12月上旬
- 場所／ELM(ショッピングセンター)
- 交通／JR五所川原駅よりバス約15分
- 問／すこっぷ三味線世界大会事務局
- (ラボーション2内)
- ☎0173-34-2339
- 地図／P17:E-3

**裸参り**

- 問／五所川原市商工観光課
- ☎0173-35-2111
- 地図／表記なし

# 奥津軽の施設と景観

## 奥津軽トレイン

日本三大美林のひとつ「青森ひば」が広がる奥津軽の森にはかつて、日本で最初の、そして総延長320キロメートルという日本一長い森林鉄道の軌道が毛細血管のように敷かれていました。文豪・太宰治が繊細で鋭い感性を育み、津軽三昧線の原型が生まれた奥津軽の経済を支えた豊かな山々。今なお残る軌跡をたどり、歴史や文化を肌で感じて、豊かな自然に癒されるトレッキングが楽しめます。「山伏の荒行場コース」「太宰ゆかりの地コース」みちのく松陰道コース「青森ひばの神木コース」ほか全8コース。ヘルスツーリズムプログラムによる「DAZAI健康トレイン」も提供しています。(地図／P16)

## 脇元海辺ふれあいゾーン

脇元地区は、かつて漁業を生活の糧に暮らしていた町です。年月が経つに連れて漁場は北上して北海道へと移り、昭和20年頃から衰退の一途を辿りました。現在、往時の姿を偲ばせる「鯨御殿」が復元され資料や当時の漁具などが展示されています。また、魚介料理が楽しめるサマー・ハウスや、ひばのログハウス風バンガローもあります。

**大沼公園**

市浦地区、唐川城跡のふもとに位置し、大沼を中心に一周コースが整備され、湖沼や湿地林の動植物の観察に適しています。コースには「縄文の橋」と日本一長い屋根付の「東日が流館橋」があり、変化に富んだトレッキングが楽しめます。近辺には中世に建造したとされる「日吉神社」があり、奥津軽の自然・歴史を満喫できます。



**Y・C・M 吉幾三コレクションミュージアム**

- 時間／9:30~17:00
- 休館／8月13日、12月31日~翌1月1日
- 料金／一般800円
- 交通／JR五所川原駅より徒歩約5分
- 問／☎0173-26-6686
- 地図／P17:C-2



## Y・C・M 吉幾三コレクションミュージアム

- 時間／9:30~17:00
- 休館／8月13日、12月31日~翌1月1日
- 料金／一般800円
- 交通／JR五所川原駅より徒歩約5分
- 問／☎0173-26-6686
- 地図／P17:C-2

**奥津軽トレインガイド**

- 料金／半日8,800円、1日16,500円※ガイド1名に対し10名以内
- 問／かなぎ元氣村
- ☎0173-52-2882
- 地図／P16 奥津軽トレイン参照

**脇元海辺ふれあいゾーン**

- 期間／4~9月
- 料金／鯨御殿宿泊4,000円
- 問／かなぎ元氣村
- ☎0173-62-2775
- 地図／P18:A-1

**中の島ブリッジパーク**

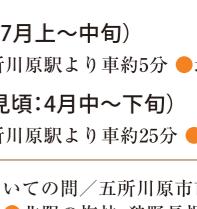
- 期間／4~11月
- 料金／ケビンハウス宿泊1棟12,500円~15,000円
- 問／JR五所川原駅より車約1時間15分
- 地図／P18:B-2

**大沼公園**

- 交通／JR五所川原駅より車約50分
- 地図／P18:B-2

**狼野長根公園**

- 交通／JR五所川原駅より車約20分
- 地図／P16:F-3





## 奥津軽を楽しむモデルコース

### ① 津軽金山焼見学&五所川原市内観光&立佞武多まつり鑑賞

五所川原駅 タクシー 津軽金山焼(見学・買い物) タクシー  
 五所川原駅下車&カフェ でる・それ(買い物) 徒歩(3分) 太宰治「思ひ出」の蔵(15分)  
 徒歩(3分) マルコセンター「海鮮丼」(食事・買い物・45分) 徒歩(1分) 立佞武多の館  
 (観光・60分) 徒歩(1分) あげたいの店みわや(買い物) 徒歩(3分) 立佞武多まつり鑑賞  
 (19:00開催/約1時間)/青の街を愉しんでください



### ② 津軽鉄道に乗って太宰ゆかりの地巡り

津軽五所川原駅 鉄道(30分) 金木駅 下車すぐ 「かなぎ文学散歩」(2時間・3時間コース)  
 10:00開始※2時間コースは津軽三味線なし/3時間コースは昼食あり 徒歩(約20分)  
 喫茶「駅舎」で食事(30分) 徒歩(約20分) 金木駅 鉄道(30分) 津軽五所川原駅  
 五所川原市街地散策/青の街を愉しんでください  
 かなぎ文学散歩2時間コース/金木駅→旧津島家新座敷→雲祥寺→南臺寺→太宰治記念館「斜陽館」  
 かなぎ文学散歩3時間コース/金木駅→太宰治記念館「斜陽館」→津軽三味線会館→雲祥寺→旧津島家新座敷(昼食:茶房郷家の弁当)



### ③ 津軽半島周遊、しじみ採り体験と神秘に触れる旅

JR五所川原駅 バス(約15分)又はタクシー レンタカー 車(約40分) 高山稲荷神社  
 車(約17分) 中の島ブリッジパーク・しじみ採り体験 車(約15分) おさかな海岸(食事:休憩)  
 中泊メバル膳 車(約30分) 山王坊日吉神社 車(約20分) 道の駅十三湖高原(買い物:休憩)  
 車(約50分) レンタカー(返却)/青の街を愉しんでください

\*五所川原市には、「ELM(ショッピングセンター)」近くに「トヨタレンタリース青森」があり、「タイムズカーリース五所川原店」が駅より徒歩20分の場所にあります。



## 温泉&宿泊施設

○は温泉有り □は宿泊施設

ホテルサンルート五所川原	地図 / P17:C-2
○ H 五所川原市布屋町25	□ 0173-34-8811
ホテルサンルート パティオ五所川原	地図 / P17:D-2
□ 五所川原市田町181	□ 0173-33-3333
パークイン五所川原エルムシティ	地図 / P17:E-3
□ 五所川原市唐笠柳字藤巻66-12	□ 0173-34-8910
ごしょがわら温泉ホテル	地図 / P17:C-4
○ H 五所川原市松島町2-90	□ 0173-34-2121
夢野温泉ホテル	地図 / P16:F-3
○ H 五所川原市持子沢字隠川686	□ 0173-29-3153
芝楽旅館	地図 / P17:C-2
□ 五所川原市字旭町46	□ 0173-35-1201
旅館たなべ	地図 / P17:B-2
□ 五所川原市敷島町19	□ 0173-35-5740
民宿宿屋 Pitt INN 羽藤苑	地図 / P17:F-2
□ 五所川原市姥范桜木28-1	□ 050-7118-6505
ロイヤル温泉旅館	地図 / P17:A-3
○ H 五所川原市太刀打字千束町13-7	□ 0173-39-2323
広田温泉	地図 / P16:F-3
○ 五所川原市広田字下り松111-1	□ 0173-34-6385
磯の湯温泉	地図 / P17:B-2
○ 五所川原市下平井町219	□ 0173-35-0568
エルムの湯	地図 / P17:E-3
○ 五所川原市唐笠柳字藤巻509-17	□ 0173-34-1126
音次郎温泉	地図 / P17:D-4
○ H 五所川原市石岡字藤巻56-1	□ 0173-35-9885
金太郎温泉	地図 / P16:F-2
○ 五所川原市姥范桜木299-1	□ 0173-34-7715
民宿と食事処エンゼル	地図 / P18:D-3
○ H 五所川原市金木町芦野84-715	□ 0173-53-2349
金木中央老人福祉センター「川倉の湯っこ」	地図 / P18:D-4
○ 五所川原市金木町川倉字七夕野	□ 0173-53-3864
旅館琴湖園	地図 / P18:C-1
□ 五所川原市十三五月女苑2-2	□ 0173-62-3102
民宿 和歌山	地図 / P18:C-1
○ H 五所川原市十三羽黒崎133-22	□ 0173-62-2357
ロイヤル温泉	
広田温泉	
磯の湯温泉	
エルムの湯	
音次郎温泉	
金太郎温泉	



## 市浦地区詳細図



## 金木地区詳細図



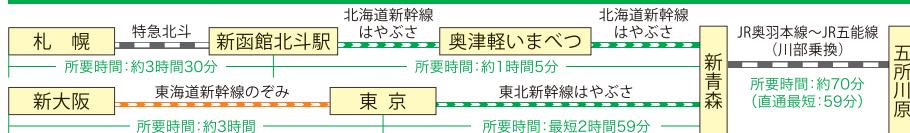
# 奥津軽・五所川原市への1次交通／2次交通

## 飛行機の場合

東京	1時間15分～20分①
大阪(伊丹)	1時間30分～35分①
札幌(千歳)	1時間40分② 50分②
名古屋(名古屋)	1時間20分③
神戸	1時間40分③
ソウル	2時間20分～35分④
台北(桃園)	3時間10分⑤

①JAL国内線予約・案内 ..... ☎0570-025-071 ☎03-5460-0522  
 ②ANA国内線予約・案内センター ..... ☎0570-029-222  
 ③FDAコールセンター ..... ☎0570-55-0489 ☎054-903-3110  
 ④大韓航空青森支店 ..... ☎017-732-3311  
 ⑤エバー航空 ..... ☎0570-666-737

## JRの場合



※ご利用される列車や日時によって、目的地までの所要時間が変わることがあります。あらかじめ駅窓口にてお尋ねいただくか、大型時刻表でご確認ください。

●問(時刻、運賃、料金、空席情報) / JR東日本お問い合わせセンター ☎050-2016-1600 (6:00～24:00)

## 奥津軽・五所川原市への2次交通／3次交通

### 予約制乗合タクシー【奥津軽いまべつ～津軽中里】

【奥津軽いまべつ駅～津軽中里駅】 / ●運行時間 / 6:00～23:00 ●予約受付 / 利用日の前日17:00まで ●予約受付時間 / 9:00～17:00 (キャンセルは前日の17:00まで)  
 ●料金 / 大人600円～2,400円 (降車場所で異なります) ●受付・問 / 道の駅いまべつ  
 ☎0174-31-0205 (WEBでもご予約できます) ●HP / norai-taxi.jp/

### 弘南バス【五所川原～小泊線】※停留所は一部省略

【十三経由】 / 五所川原営業所～(約15分)～五所川原駅～(約13分)～有楽町(JR木造駅近く)～(約67分)～中の島公園入口(十三湖)～(約20分)～市浦庄舗前 ●便数 / 8便  
 【金木・中里経由】 / 五所川原営業所～(約15分)～五所川原駅～(約30分)～金木案内所～(約15分)～中里駅前～(約25分)～相内～(約53分)～小泊 ●便数 / 6便  
 ●問 / 五所川原駅前案内所 ☎0173-35-9121 ●HP / konanbus.com/

### 津軽鉄道

●路線 / 津軽五所川原～金木～芦野公園～津軽中里 ※駅は一部省略。  
 ●便数 / 往復最大30便 (日曜・祝日運休便有り)  
 ●問 / 津軽鉄道 ☎0173-34-2148 ●HP / tsutetsu.com/

### JRリゾートしらかみ

●路線 / 青森～新青森～弘前～板柳～五所川原～鰺ヶ沢～深浦～十二湖～秋田  
 ●始発・終着 / 秋田駅～青森、青森駅～秋田、弘前駅～秋田  
 ●便数 / 往復全6便 (夏季・冬季は便数が変わります)  
 ●HP / www.jreast.co.jp/akita/gonosen/index.html

### 五能線(青森より奥羽本線経由、川部乗り換え)※上り・下りとも平日の便

●路線 / (青森～)弘前～川部～藤崎～板柳～陸奥鶴田～五所川原～木造～鰺ヶ沢～千畳敷～深浦～十二湖～白神岳登山口～岩館～東能代  
 ●上り / 深浦～東能代、鰺ヶ沢～東能代、弘前～東能代、弘前～深浦、弘前～鰺ヶ沢、青森～川部～深浦  
 ●下り / 鰺ヶ沢～弘前、深浦～弘前、深浦～川部～青森、五所川原～弘前、東能代～弘前

### タクシー ※市外局番は0173

- 五所川原交通 ☎035-3030 ... ☎34-3232
- 尾崎タクシー ☎35-2195
- 木村タクシー ☎35-7755
- 外崎タクシー ☎35-5252
- ノーリツタクシー ☎35-1655
- 成田観光タクシー ☎34-2661
- 金木観光タクシー ☎52-3030
- しうら観光タクシー ☎62-2204

### 列車案内 ※市外局番は0173

- JRお問い合わせセンター ..... ☎050-2016-1600
- 津軽鉄道五所川原駅～金木駅 ..... ☎35-7743
- 津軽鉄道五所川原駅 ..... ☎53-2056

### 路線バス ※市外局番は0173

- 弘南バス五所川原営業所 ☎35-3212
- トヨタレンタリース青森 ☎33-0100
- タイムズカーカー五所川原店 ☎38-5033

### レンタカー ※市外局番は0173

●五所川原市商工観光課 ☎0173-35-2111

●五所川原市観光協会 ☎0173-38-1515

●http://www.city.goshogawara.lg.jp/tourism/

## 長距離バスの場合

東京(新宿)	パンダ号(新宿線)① (約8時間30分～9時間)	弘前・五所川原
新宿・横浜	ニューエクスター号② (約9時間45分)	弘前・五所川原
上野	スカイ号③(昼行: 約9時間30分) パンダ号④(約9時間～10時間20分)	弘前・青森
東京	津軽号⑤ (約10時間10分)	弘前・青森
東京駅八重洲南口	ドリーム青森/盛岡/東京号⑥ (約10時間30分)	盛岡・青森
仙台	キャッスル号⑦ (昼・夜: 約4時間35分～50分)	弘前
盛岡	ヨーデル号⑧ (昼・夜: 約2時間15分)	弘前
盛岡	あすなろ号⑨ (昼・夜: 約2時間44分)	青森

\*昼・夜の表示の無い場合は夜行となります。ヨーデル号以外の路線は要予約

●問 / ①～⑤⑧弘前バスターミナル  
 ☎0172-36-5061、予約センター ☎0172-37-0022  
 ⑥～⑦JRバス ☎017-773-5722

龍飛崎 ↑ 新函館北斗



### 津軽フリーバスエリア

(エリア内2日間乗降自由)

### 津軽フリーバス

【ご利用できる交通機関】※すべての路線は一部駅を省略。

- JR奥羽本線 / 青森駅～碇ヶ関駅 ●JR五能線 / (弘前駅～)川部駅～五所川原駅
- 津軽鉄道 / 津軽五所川原駅～金木駅 ●弘南鉄道(全線) / 大鶴線 / 弘南線
- 弘前市路線バス / 弘前市循環バス (ためのぶ号・土手町循環・城東循環)、他 ●五所川原市路線バス / 五所川原商店街循環 (五所川原駅～バスマート～エルムの街・他) ●黒石市方面路線バス / 平川市方面路線バス / 大鶴・碇ヶ関方面路線バス ●西目屋村方面路線バス / 大秋・川原平線

### 【販売所・料金・特典・他】

- 販売所 / 青森県内のフリーエリア内と深浦駅・鰺ヶ沢駅および秋田県内 (十和田南駅・鹿角花輪駅を除く) にあるJR東日本みどりの窓口・指定席券売機設置駅・びゅうプラザ、主な旅行会社
- 料金 / 大人2,100円、子供1,050円
- 特典 / ①協賛施設で、料金割引やウェルカムドリンクなどのサービス。②割引情報などを掲載したガイドブックとフリーエリア内の時刻表が付いたポケットサイズの時刻表を進呈。
- 有効期間 / 2日間 (乗り降り自由)
- 問 / 津軽フリーバス運営協議会 (弘前市観光振興部国際広域観光課内)  
 ☎0172-40-7017 (受付時間9:00～17:00※平日のみ)
- HP / www.tsugarunavi.jp/freepass/



五所川原市  
公式観光サイト



もぐもぐ五所川原